



つとむ通信



公式ホームページ RQ コード

地域力 UP！

1. 個々の知恵やアイデアを汲み上げて
2. 地域の特性を生かして
3. 心と心が響きあう安心の社会を

富津市議会議員 渡辺つとむ 後援会事務所 千葉県富津市千種新田375-5

TEL 0439-65-0526 FAX 0439-65-0683

e-mail tsutomu364@rondo.plala.or.jp

政策討議資料

No.29 令和5年1月 議会報告



新年あけましておめでとうございます。

後援会の皆様にとって素晴らしい年となりますことを

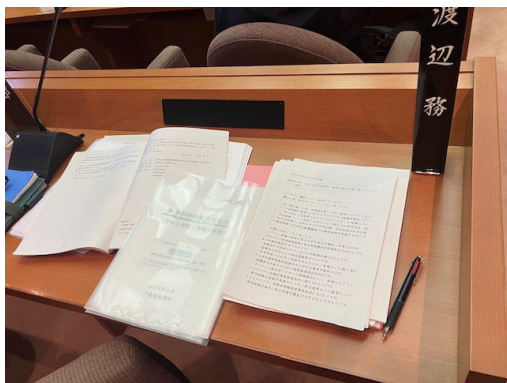
お祈り申し上げます。元富津市議会議員渡辺つとむです。

私事ではありますが、去る11月18日をもちまして約15年務めさせていただいた市議会議員を辞職いたしました。

来る令和5年4月の千葉県議会議員選挙に挑戦することを決意いたしましたのでそのご報告をさせていただきます。

✚ 新たなステージを目指して！

今まで4期15年にわたり、後援会の皆様には私、渡辺つとむにご理解とご支援をいただき本当に感謝申し上げます。皆様のご支援のおかげをもちまして、市議会内での各種委員会や審議会、また市を超えての活動となる広域下水道や市町村圏、後期高齢者医療など様々な活動をさせていただきました。



また、昨年5月までの2年間は、第25代富津市議会議長を拝命し、活動の場を広げさせていただいたことに深く御礼を申し上げます。貴重な経験を積んだと同時にその中で、私自

身が感じる事、思う事を率直に申し上げる機会を持たたことは私にとってこの上なく幸せなことでありました。

さて一方その活動の中で、富津市が抱える課題について「市だけでは実現できない問題（人的・財政的）や近隣市との広域の連携について、また県北部の地域と私たちの住む富津市との事情の違い等々、課題を強く認識するようになりました。

例えば、子育て環境の充実では、働く場所はあるが子育ての環境が厳しい県北の地域と、そもそも結婚する相手との出会いの場が少ない富津市など県南地域では事情が異なります。例えば、商工業施策について、そもそも産業構造が大きく違う南部や外房地域では、それぞれの地域の実情に合った施策が必要なこと。

例えば、市民の足として必要性の高い公共交通網に関しては、都市部と同じ発想や取り組みでは、担い手も含めて長続きする仕組みがなかなか確立できないこと等々 多くの課題について、そろそろ視点や考かたを変えるべき時期なのではと思うようになりました。**「施策・政策を変えるだけでなくマインドを変える！」** 富津市はそんな段階にあるのだと実感しています。もちろん私自身も市議会議員の一員として、市行政に対して様々な意見や提案をし、市長をはじめ職員の皆さんとともに一生懸命取り組んできました。しかしそこには人口 4 万人足らずの当市では限界・壁があることも痛感してきました。そこで今回、その想いを県に繋げる役を買って出ようと決意したところです。

✦ 市議会議員として取り組んだこと

4 期 15 年の間、様々な勉強と経験をさせていただきました。もちろん子育てや福祉の要望、地域の道路や地籍の問題、排水や給水（上下水道）の困りごと等、多くの市民の皆さんから個別に寄せられた要望に懸命に対応してきました。その中には出来たこともあれば残念ながら実現できなかったことも多々ありました。それと同時に全体としての市の将来に関わることも取り組んでまいりました。そのいくつかについてご報告させていただきます。

☆ 財政の健全化の具体策

私が最も印象深いことは、平成26年のあの「**富津市財政破綻報道**」とその後の市議会の行動についてです。

あの日のことは今でもはっきりと記憶に残っています。8月の終わり、まもなく始まる9月議会にむけて行政側から「**第二の夕張になりかねない**」と強い口調で市議会に財政改革に向けての決意が報告されました。当時、“随分強い言葉を使うなあ。それだけ強い決意なの

だ、これは財政改革の大きなチャンスだ！”と私は感じながらその説明を聞いていました。驚いたのはそれとほぼ同じ内容のものが翌日の全国紙に掲載されたこと。市議会に説明のあった日の午後、記者会見でほぼ同じ説明がなされたのだと、直観しました。その後しばらくは、市民からもあまり反応がなかったのですが、半月〜一か月経過したころから、多くの市民が知るところとなり私たち市議も強く糾弾されました。



(財政破綻報道後の市民報告会 左が渡辺)

私はかねてより、中期財政見込みのリアリティの無さやローリング方式による予算の持ち越しを改めるべきと主張していたので、「チャンス」と感じていたのですが、それでは市民の皆さんの理解を得られませんでした。

「**政治は結果がすべて。**」これはある政治家の先輩から教えていただいたこと。この言葉の重さを痛感しました。

「言いましたけどダメでした。」

「頑張ったけど予算の関係で・・・」

では通じないことがある(すべてがそうだというわけではありませんが)という事を思い知らされたのです。

そこで年が明けた平成27年3月の次年度予算編成の際、私は当時の市議会議員有志に声をかけて議員発議として「**附帯決議**」をまとめました。(平成26年度議案第31号富津市一般会計予算に対する付帯決議)

これは次年度予算について、当然財政再建

元年という位置づけで厳しい削減を行う内容でしたが、次年度だけではなく、今後二度と財政不安が起これないような仕組みづくりをせよ！との強い意志を行政に迫ったものでした。その決議文の内容は以下の3点に集約されました。

- 1, 従来の中期収支見込みから、さらに踏み込み「中期及び長期の財政計画」を策定し、計画的な財政運営に努めること。
- 2, 市の行う各事業計画について財政計画との整合性を図り適切に遂行すること。
- 3, 財政計画及び事業計画は、透明性を保ち市民・議会への周知に努めるとともに、必要があれば計画期間内であっても見直しの対象とすること。

付言：今までの財政運営の踏襲では市民には、いっとうやって財政を健全にするかわからない。それを示すためには財政と事業のバランスと整合性を保った計画を明らかにする必要がある。我々の要望するのは、単なる収支の見込みではなく、今後5年間の具体的な予定を出すこと、そしてそれを積み上げた形での長期の計画を市民に示すことを強く要望するものでした。この付帯決議の後に、行政側は具体策となる条例を策定し実施することになりました。

☆「行政事務と議会のデジタル化」

ここ数年来続いたコロナ禍の影響は行政や議会にも大きなものがありました。デジタル世代の若者には及びませんが、私もサラリーマン時代の1980年代からコンピュータやシステムに多少は関わった経験から、効率化や生産性について積極的に取り組んで来たつもりです。議員会派の中では、オンライン会議を頻繁に行うようになり、他市の議員とも連携した会議によりコロナ感染防止の具体策を実践してきました。

また会派だけではなく、4市議長会や富津

市議会内での勉強会やセミナーについても、非公式なものには限定されましたがオンライン化を積極的に進めてきました。この取り組みが進化して、公式の会議についてもオンライン化が可能となるような条例整備や運用規定が整う事を期待します。

それに先立ち、本会議ではインターネットによる本会議の動画配信と、その後の録画配信も同僚議員の皆さんの協力で実現させることができました。市民に開かれた議会とそれによる市政・議会への市民の関心度を高めることができればと考えています。

また、ペーパーレス議会と銘打ち、行政幹部職員と議員がタブレット端末を駆使することにより、資料作成にかかるコストや、議会担当職員の配布にかかる手間や時間を削減しようと実施を決定するところまで進めました。コロナ禍の影響でタブレット端末の欠品等の事情により、導入までは至っていませんが、実現すれば行政コストの削減に大きく寄与することになると思います。

それでは今後はどんな目標を掲げて活動するのか？その一端を書かせていただきます。

✦ 新たなステージで目指したいこと

「人口減少にブレーキを！！」

人口減少のペースを鈍化させる施策は、市だけでは限界があります。そこで様々な分野で千葉県と連携して前進させます。



(子供は地域の宝です)

① 商工業対策

地域中小企業が活躍できる環境を整えます。「地域経済循環分析」の考え方により、ビックデータ等を活用した新たな手法を提案して、お金が地域の中で循環する仕組みづくりに挑戦します。地域の稼ぐ力を増強するには、県との人的・政策的連携が不可欠です。

② 観光振興



(クルーズ船誘致は広域での連携が必要)

富津公園・金谷地区を中心として、「湘南」に負けない「内房」エリアとしてのコンテンツの質の向上を目指します。

木更津市が進めている大型クルーズ船誘致活動等と連携し、海外からのインバウンドも含めた観光客誘致には富津市だけの取り組みでは限界があります。「内房」という視点で、湘南に負けないブランド力を目指しましょう。

③ 少子化対策

かずさ4市の中では水をあけられた感のある「出生率」。これを向上させるには、県北部と同じ子育て支援策を講じても大きな効果は得られません。県南地域に合った対策を、県に進言します。具体的には「相手がいない」とい

う状況を改善するための方策。そして大企業で進んでいるワークライフバランスの充実を実現しましょう。特に男性の育児参加については地元の中小企業経営者に国・県の助成事業の詳細を啓蒙することが急務です。

④ 関係人口の増加



(大都市では少なくなった地域行事)

地域の文化を資産と捉え、その中で暮らす市民とともに「競争と排除」の論理から抜け出して、「寛容と社会包摂(ほうせつ)」によっていつくしめるまちをつくりましょう。

上の4つのテーマは私が市議会でも取り組んで来た課題です。これらを人的にも資金的にも発想の転換と知恵をもって、できるだけ具体的に取り組んでまいりたい。それを発揮できる場を私にお与えいただきたいと存じます。

「これまでか？これからか？」

24年の間、富津市で議論されることの無かった「県政」について、政策の論戦を挑みたいと考えます。

何とぞご理解とご協力をお願いいたします。

渡辺つとむプロフィール

昭和36年4月25日富津市千種新田生れ
県立木更津高校卒
立教大学経済学部卒(弁論部出身)
工学院大学専門学校建築科研究科卒
藤和不動産(株)財務部に勤務後
現在家業(有)渡辺サッシ代表取締役社長



元富津市議会議員(令和2年～令和4年)
在職中 各種常任・特別委員会に所属
富津市バドミントン協会会長
富津市国際交流協会副会長
富津市スポーツ推進委員